

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月27日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3894000037
事業所名	グループホーム きらり
(ユニット名)	そら
記入者(管理者)	
氏名	萩森 日出子
自己評価作成日	H30年 8月 7日

<p>【事業所理念】</p> <p>わたしたちは、ひとりひとりの「きらり」と輝いていた時代を大切に、泣き笑いを共に分かち合い、今また「きらり」と輝ける暮らしを支援し応援いたします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1) 自分だったら嫌だと言うケアをしないと言う目標のもと、①羞恥心を伴うであろう、排泄・入浴などの介助を行う時は、自分自身にも問う。「これでこの方はいやがらないのだろうか」と・ → 一部職員には大きな声を出すものがいた。②夜間のドアの開閉はご本人に確認する。安全面も大切だが、出来るだけ本人の希望を叶える。 → 確認の上で少しだけ開放させてもらい安全面も考慮した。</p> <p>2) 自分の食べたいものを自分で作る。職員は利用者と関わる中で、可能性を引き出す喜びや、何かもつとできるのではないかという気持ちを持ってると言う目標のもと、①職員と一緒に献立を作る。何を作るか、材料は何かを話し合う。 → 1回だけメニューを決め、材料を決め、買い物にも行き、料理を行った。継続出来ていないが、1ユニットでは、メニューの決定と料理だけは、あと2回行えた。②昼・夜食を作る。 → 昼食だけでも大変で出来なかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>閑静な住宅街の中に立地している事業所で、となりには公民館があり、地域住民との付き合いもしやすい環境である。玄関入口には季節の野菜や花が植えてあり、利用者も季節を感じることができる。事業所が主催して行う夏祭りや敬老会も定例化しており、家族や地域住民の参加も多くある。月1回の職員会議には法人代表も毎回参加しており、代表と管理者を中心として支援を行なっている事業所である。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	話し合いは行っているが、それを具体的に実行する為の方法の話は進まない	◎	/	○	生活支援を行う中で、利用者の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。会話での確認が取れない利用者に対しては、表情を観察し、意向や希望を読み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	検討している。しかしそれが本当に本人の希望かは判断しがたい。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族がくれば、話を聞き、思いを探ろうとするが、家族もわからない事が多い。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント表等を活用し、本人の思い・希望の欄を作り、担当者以外も気付いた時にそこに記入するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	注意しているが、職員の決めつけが入っている事もあると思う。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に一応の話を聞き、記録する。家族が来れば、話を聞き、その人を理解する手がかりとしている。	/	/	○	入居前の調査で生活歴などを聞き取りしている。家族や担当していた介護支援専門員からも情報を得ている。入居後は家族の面会時にも確認し聞き取りを行っている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	記録を細目に行う事と、普段と異なる状態であれば、詳しい記録を残すように努めている。それを繰り返す事により、把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	検討はしているが、それが正解かどうかはわからない。	/	/	○	把握した情報を職員が利用者の視点で検討し、本人や家族に確認してもらっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスで検討している。出来るだけ実行できるように心掛けている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題は明らかになっていると思う。それが本人にとって、課題ととらえられるかどうかは不明な点もある。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	全ての方の思いや意向が反映去れているとは言えない。	/	/	/	職員同士でアセスメントやケアのあり方について話し合いを行っている。利用者にも聞きとりができる場合はしているが、家族には結果を報告し確認作業になっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族の意向は聞くも「特にありません」「今まで通りでおねがいします。」が多く、本人も希望を言われる方は少ない。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	×	重度になると意志を伝えない方が多く、その方の思いを把握する事が困難である。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族の協力は得られる事もあるが、ほぼ職員が行うケアとなっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスでも話し合い、普段も職員間で話し合い共有出来ている。	/	/	○	介護計画は個人ファイルに綴じ、カンファレンスを通じ職員が共有できるようにしている。モニタリングを行うことで日々の支援につなげている。個人ファイルに利用者の言葉を記録し、注意事項は赤字で記録している。職員の気づき等に関しては、個別にファイルに記録する職員としない職員がいるので、職員全員で徹底することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録には残している。カンファで話し、今後の支援について協議しているが、支援に繋がっているかは・・・	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	職員のレベルにより、記録が詳しく書けている者とそうでない者がいるが、いつもと違う時は、赤字で記入出来ている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきや工夫があっても、話し合う事はしても、その時その時に記録する事はあまり出来ていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月～六ヶ月でプラン見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月から6か月で見直しを行っている。月1回はモニタリングを行い利用者の状況を確認している。入院等変化があれば、カンファレンスを開き現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一回のモニタリングを全員行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院等により変化があれば、退院時に計画を見直し、変更している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	×	会議は基本月に一回である。大きな問題が発生した時には、臨時で行う事がある。	/	/	○	月1回の職員会議を実施している。緊急案件がある場合は、担当職員と法人の代表者及び管理者で話し合いを実施している。基本的に会議は全員参加であるが、出席できない場合は口頭での説明と会議録を回覧し共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見の出やすい様に、司会者は頑張っている。最初の頃に比べ、意見は多く出る様になった。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	シフトの都合で、参加出来ない職員はいる。他の職員は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を書き、引き継ぎノートに挟み、内容を伝え、皆にサインをもらっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを作っており、それを読めばサインするようにしている。会議記録も読めばサインしている。	/	/	○	申し送りノートの活用や受診ノートを作成し、確認した職員はサインし日付を記入するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	上記同様。連絡事項等は、ノートを利用している。家族とのやり取りは介護記録に記入している。	○	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	その日にしたい事を訴える方は把握できるが、殆どの方はどうしたいのか訴えなく、また叶えて差し上げたいが、出来ない。	/	/	/	日常生活の中で職員は利用者寄り添い、声かけを行いながら雰囲気作りを大切に、入浴時の衣服の選択をしてもらうなど自己決定できるように支援している。利用者が楽しみ喜んでいる様子を多く見られるよう、生き活きた言動や表情を引き出す声かけや雰囲気づくりにも努めて欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	入浴時の衣類を選んだり、バイキングで選んだりされるも買い物等に行っても何を選ぶか戸惑う方も多い。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	職員の都合や、人数等により、出来ない事が多い。しかし姿勢としては、利用者の希望を聞き、話し合っ得出来る様に働きかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床が、10時近くになる方もいるが無理に起こしたりはしない。入浴に関しては、なかなか思い通りにはしてあげられなく、業務のち号に合わせた時間になっている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	失礼な言い方をしない様には心掛けているが、生き生きした表情等を引き出す声かけはあまり出来ない。	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	反応に気づく努力は行っているが、意向に沿った暮らし方が出来ているかは疑問である。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	意識はしているが、出来ない事が多い様に思う	◎	◎	△	職員は利用者の誇りやプライバシーを意識し、日々の支援に努めているができていないことが多いため、思いやりを持って利用者へ声かけをするよう努めて欲しい。代表者が職員入社時にオリエンテーションを行い、声かけや態度について意識するよう説明をしている。排泄時など声かけに配慮し、不快な思いをさせないように注意しているが、できていない職員もいるため、徹底して取り組むことが望まれる。利用者の居室に入る時は、ノックをして利用者に許可をもらい入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	出来ている職員もいれば、出来ない職員もいる。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	注意しているが、難聴の方への声かけは大きな声となり、配慮に欠ける	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者に声掛けし、居室に入っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、順守出来ていると思う。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	編み物・縫い物を教えて頂いたり、一緒に掃除をおこない、感謝をしている。	/	/	/	トラブルにならないよう日頃から観察しており、職員は早めに仲介することで未然に防ぐよう努めている。利用者同士が支えあう行動を職員は見守ったり、利用者が他の利用者の世話をしているときなどは、感謝の気持ちを伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解出来ている。助け合っている方もいれば、そうでない方もいる。そのフォローが難しい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	努力していると思う。利用者同士が助け合ったり、手伝ったりする姿がある。また利用者皆が楽しく過ごせる様に、職員も利用者も声をかけている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こりそうな時は、間に入り、起こらないように利用者を移動したり、話をする。状況によっては見守りを行う事で利用者同士で、解消できる事もある。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	全ては把握できていないと思うが、記録されている分に関しては、把握する努力はしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族が話してくれたことに関しては、把握しているが、知らない事が多いと思う。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	少数の方に関しては、出来ているが、多くの方は出来ていない。知人や友人を知らないし、馴染の場所を把握できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	そのような雰囲気になれる様に、笑顔で接している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩・ドライブ・買い物・食事・カラオケ等々行っているが、その日の希望によって行く事は少なく、業務に差しさわりの無い時、計画を立てて行っている状況。	○	○	○	事業所周辺を散歩したり、庭の水遣りや野菜の収穫、洗濯を干しに出るなど戸外での支援に取り組んでいる。重度の利用者は、終日居室で過ごすことがないよう努めているが、あまり外出できていないので、できる限り機会を見て外出支援にも取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	天気の良い時に、日光浴や散歩に行く程度であり、それも多くはない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	数名の方が、家族の支援で外食や外泊が出来るが、地域の支援はほぼ無い。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症についての勉強会などを行い、理解は深めているが、要因をひもとき、取り除くケアを行っているかと言うと出来ていない。ただそれぞれが日々認知症ケアに対しどうすれば良いのかと思いつながら頑張っている。	/	/	/	洗濯物をたたむ利用者に対し職員は見守りを行い、さりげなく会話をしながら支援しているが、つい手や口を出してしまうことが多いため、できる限り見守るよう専念し利用者の自主性を尊重した支援に努めて欲しい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	特徴を理解しているのは、個々の職員で違っている。現在の状態を維持するためには、どのような事をするのが良いのかは、話し合いを持ち行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	見守る事の意味を話しているが、手や口を出す事が多い様に思う。	○	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	ご自分から、○○がしたいと言われる方には、行って頂くが、それを言われない方には、何がしたいのかわからず支援出来ていない。	/	/	/	カレンダーの日付け交換や洗濯を干したりたたむなど、それぞれに役割が決まっているが、日常的には取り組めていないので利用者の出番が増えるよう配慮し支援して欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	何かのイベント(例えば料理を作る)の時には、役割等を持って頂けるが、日常的には出来てはいない。	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	普段好んで着られる服などは把握できている。おしゃれと言われると把握できていない事が多い。	/	/	/	食事中の食べこぼしなどは職員がさりげなく対応している。病院受診帰りの利用者は、ウィッグを使用されていた。男性の利用者は、腕時計をしたり帽子をかぶっていたりと好みのおしゃれを楽しんでいる。重度の利用者も含め、訪問理容を利用するなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	本人の好みを尊重している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員が選んできていただく事が多い。またご家族が、本人に合うと思う物を持って来られる。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援しているが、頑固で強く拒否されそのまま更衣しない方もいる。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	大体出来ているが、食べこぼしなどを指摘する者もあり、注意しないといけない。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	望まれる方は行ける様にしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	気を付けており、ホームに美容師が来られ、カットしてもらったり、髭剃りは毎日行い、衣類なども家族と協力して、気候に合ったものを着て頂いている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	理解出来ている者とそうでない者がいる。	/	/	/	買い物、調理や片付けもほとんど職員が行っており、利用者はあまり行っていないので、何かできることに取り組んでもらえるような機会を増やすなど配慮して欲しい。献立は栄養士が作成しているが、利用者の声を聞きながら季節のものや郷土料理などを盛り込んでいる。茶碗や箸、湯のみは利用者専用のものを使用するなど、それぞれ使いやすいものになっている。食事は職員も一緒に食べており、会話を楽しみながら自然な見守りや支援ができています。重度な状態であっても、食事前からリビングで過ごし、音やおいを感じながら過ごしている。ミキサー食や刻み食など利用者の状態にあった調理方法を、医師や栄養士のアドバイスを参考に職員が話し合い、偏りがないようバランスよく栄養が摂れるよう配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理や片付けは行う事もあるが、献立作り・食材選びはほとんど行っていない。一度だけ、行ったことがあるが、継続出来ていない。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	常時出来ていないので、自身等には結びついていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握しており、アレルギーについては、十分注意をしている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立作りは、主として栄養士が行っているが、季節の者などを頂いたり、誕生日・イベント等の時は、職員が話し合い、献立を作っている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いづれ器の工夫等)	○	状態に合わせた工夫や、調理を行っているが、ミキサー食の場合、おいしそうには見えないと思う。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族が持って来てくださるが、状態によりコップや匙等は、職員が購入してくる事もある。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は共に、同じものを食べている。声掛けやサポートを行っている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音が聞こえ、匂いはわかると思う。食事の前になると声掛けなくとも居室から出る方も居られ、「私の食事あるの」と聞く方もいる。待ち遠しいのか不安なのかはわからないが、食事には関心を持っている方が多い。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	特に水分には注意をしている。献立は栄養士が作っている。個々の摂取量は微調整を行っている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	嚥下や咀嚼の問題があって摂取量が少ない方には、医師に相談したり、ゼリー状にして水分を摂取して頂いている。またミキサー・トロミ等も取り入れ、栄養不足にならないように注意している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養士が居るので、栄養士が献立をたてている。話し合いは行っていないが、旬の食材を使った料理が出来る時には、変更し利用者が喜ぶ食事を提供出来る様に心掛けている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は毎日買い物し、作り置きをしない。また調理器具は毎日ハイター等で消毒している。ノロを心配する時期は、出来るだけ生物は食べない。	/	/	/			

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	2名理解できていなかった。が口腔ケアは行っている。	/	/	/	利用者の口腔内の把握ができていないため、今後は利用者一人ひとりの状況把握に努めて欲しい。洗面所まで行けない利用者には洗面器を利用するなど工夫し、利用者個々の口腔内の清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	義歯の有無等は理解しているが、それ以上の事はなかなか把握していない。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学んでいない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	自分で出来ない方もおり、職員が洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨き・うがい等は声掛けや介助を毎食後行っている。どうしても拒否される方もいるが、次の食後に声掛けをあきらめずに行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	本人の訴えや、職員の気づき、家族の希望にたいおうして、適宜歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほぼ理解出来ている。	/	/	/	入居時の状況を確認し支援を行っている。トイレは広く重度の利用者もゆとりをもって使用できるようになっている。利用者の状況に合わせ、オムツなどの種類を考えながら支援しており、状況変化時には、おむつの必要性等について職員で話し合い、その人に合った支援ができるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	理解出来ていない者が居り、研修が必要。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表にて大体把握出来ている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々のその時にあった支援を行っている。パットの種類も考慮し、パンツにしても状態によっては、布パンツか紙パンツかという話し合い等は行う。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	便秘に関しては、水分・野菜・果物の摂取、運動の勧め等を行っているが、最後には薬になる。尿閉はあまり無いが、長時間でない場合は何故かと話し合い、医師に相談をすることもある。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンが大体把握出来ているので、出来ている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	こういう物(パット・パンツ等)があるので、使っていいかと言う理解はとるが、本人家族と相談する事はあまり無い。職員から案を出して意見を伺う感じである。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人のその時に合った物を使っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	行っているが、結果がなかなか伴わない。特に運動はなかなか行われる方がおられず、結局は薬に頼る事が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入る日や時間は職員の都合になる。入浴の長さや温度は出来るだけ、本人の希望を聞くが、体調によっては早めに出て頂く事もある。	◎	/	△	湯温などは要望に応じているが、入浴日や時間など職員の都合等により決めているので、利用者の要望等に沿えるよう臨機応変な対応にも努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	普段あまり話さない方が、入浴中にはおしゃべりをされる。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身・更衣等、出来る方は見守りで行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をおいて、再度声掛けしたり、声掛けの職員を変えたりしている。どうしてもダメなら、翌日に変更して様子見る。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定を行い、判断できない場合は、看護師に相談している。入浴後も水分補給などを行い、疲れているようなら、臥床を促している。	/	/	/	



愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	大体は把握できている。	/	/	/	できるだけ日中の活動を多くするよう工夫した支援に努めている。現在薬は3名利用しているが、医師と相談しながら、安易に薬に頼らないようにしている。夜間眠れない利用者に対しては声かけ等を行い支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクに参加したり、散歩・外気浴を行ったりしている。本来のリズムが、夜起きていたという方も居り、無理に眠らせようとはしない。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤を使用している方もいるが、転倒などの危険もあり、あまり使用しない様に努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休みたい方には休んで頂き、体調がおかしい方には、声掛けし休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望者は出来ている。年に一回だけ新年に年賀状の様な物を、書いて頂き、家族に送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	難聴の方には、話を聞きそれを伝えたり、手紙を書いてみないかと働きかけたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望者には電話をかけて頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	本人に渡し、電話で手紙が届いたと話してもらっているが、あまり手紙やはがきは来ない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族にもお願いするが、あまり電話も手紙も来ない。度々家族に電話をしたい方は、家族に許可を頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解出来ていない職員が多いと思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	一部の方のみ出来ている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	特に行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	一部の方が所持しているが、使う事は稀である。買い物レクがあり、希望者については、買い物に行き、事業所が立て替えている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	使う時は相談するが、持っている方は一部である。ほとんどの方は、○○を買っていいかと聞く程度。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かっている方には、きちんと出納帳を記入し、毎月家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	自分たちで出来るサービスしか行っていないと思う。	◎	/	○	急な病院受診や買い物等の外出など、その時々ニーズに応じて対応するよう心がけている。終末期等重度の利用者も含め、受診後ドライブするなどの支援も行っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門扉は無く、自由に入れる。玄関も一般家庭のようにしており、玄関に続くスロープの周囲には花や野菜を植えている。	◎	◎	○	玄関に入る場所にはプランターを並べ、季節の野菜や花が植えてある。ゆるやかなスロープ横には手すりもつけてあり、安全に移動できるなど配慮されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的とは言えないかもしれないが、毎月の季節に合った壁画を飾ったり、行事の写真を飾り、嬉しそうに見ておられる。浴室などは家庭浴槽であり、落着いて入浴出来ると思う。	◎	◎	◎	玄関には観葉植物が置かれ、壁には季節感のあるひまわりや月見の貼り絵や行事の写真が飾られている。リビングは整理整頓され掃除も行き届き、大きな窓や天窓から自然の光が差し込み、四季の移ろいを感じることができる。たたみコーナーがあり利用者がのんびりくつろぐ姿も見られた。季節の花を飾るなど雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気の時間も取り、掃除は頑張っている。食事の時間などはテレビを消している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾り、季節の壁画を作っている。台所で食事を作る音や匂いを感じている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自分の好きな場所に座っている。仲の良い利用者同士と一緒に過ごす事が多い。また一人になりたい時は、ホールのすぐ近くに個室がある。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	浴室は良いが、トイレは戸を開けたままの方もおり、見える場合がある。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時には、自宅で使っていたものを持って来て頂くように話している。	◎	/	○	部屋の入口には写真入の名前を記入した表札が設置されている。居室には家族の写真や自宅で使用していた時計や衣装ケース、かわいいものが好きな利用者のベッドには、愛用のぬいぐるみが沢山置かれていた。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	移動の為に手摺を付けている。そこで足踏み運動も行う。玄関には一人で靴の着脱が出来る様に、椅子を置いている。	/	/	/	廊下には手すりが設置され安全に移動できるようになっている。トイレも広く立ち上がりバーが設置されており、利用者自身ができるだけ自立できるように配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの表示をつけたり、居室の入口には、名前と共に写真を貼っている。が、間違える方もいる。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ほうきは玄関にあり、裁縫道具は希望されれば使って頂くが、保管場所は利用者が直ぐに手の届く所ではない。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しているが、怖さも感じている。しかし出来るだけ施錠を行わない様に皆で協力している。	◎	◎	○	鍵をかけない取組みについて、代表者や職員は勉強会を実施し弊害について理解している。玄関は自由に入出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	特別に理解を求めているが、施錠をしてほしいと言う家族もいない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中はもちろん施錠することは無い。夜勤帯の朝が出て行こうとされる方がいる。それでも何とか施錠をしない様に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表と共に、月1回のカンファレンスにおいて、症状が変化し、注意点等が変わった方については話し、皆で共有出来る様に努めている	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	早期発見には努めていると思う。バイタル測定も注意が必要な方は、数回回るように話している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師には相談が良くある。また異常と思えば、受診し、医師に相談を行っている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族の意志を尊重している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医療の内容については、家族の思いは明確には解らないが、家族の希望による受診援助を行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	異常などがあって、受診をした場合は、必ず報告をしている。必要とあれば、家族と共に受診し、説明を聞いている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	外来・病棟に於いて、状態を聞かれる。また介護サマリーの提供も行っている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室からの連絡のより、カンファレンスに向かっている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	特に意識して関係作りは行っていない。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	施設内の職員として、看護師がおり、報連相は出来ている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間でも休日でも電話連絡を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早め、早めに受診を行えるように指導している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	職員のレベルによる。作用は解っていても、副作用、用量等は理解できていない者が多い。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	投薬前に、名前・日付け・朝昼夜等の区別を口に出して投薬している。また吐き出す方も居るので確認をしている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	そこまで考えて与薬をしている者は少ない。排泄に関しては気にしている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	眠剤薬や下剤などは経過などを記録し、気にして看護師や医師に相談をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入居時には、あまり話していない。状態が変化してくれば、その時その時に、家族に話している。	/	/	/	重度化や看取りを考慮した計画を作成しており、医師や利用者、家族と管理者が話し合いを行い、代表者や職員に内容を伝えるなど、共有に努めている。年に1回は看取りケアの外部研修にも参加している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ターミナルケアを行うとなった時点では、医師などにも話し、共有、協力出来ていると思う。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	行っているつもりである。無理をしても良いターミナルケアは出来ない。また怖がっていても進歩は無いので、考慮している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	できること・できないことに関しては、入所前の訪問時、および入所時に話しているが、理解できない？忘れる家族もいる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族との話は良く行っていると思う。現在元気な方の家族は、ピンと来ていないが、重度化している方の家族は、真剣に考えられている。特養などを望まれる方には、申込書を代筆し施設に持っていく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	努力しているつもりだが、家族の思いは解らない	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	町の研修などを受けたものが、勉強会で発表したり、インフルエンザの流行期に話をする程度である。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は出来ていない。対応については決めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	流行期には気にして見ているが、常時は出来ていない。町の方から感染症情報が来るので、その時は職員間で今日烏有するようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	学校や、福祉施設などの情報は入るように努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は徹底できていると思う。ロイ放射の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族が来られた時には、現在の状況を報告し、こんなことをしてもらった、こんなふうに話された等々、出来るだけ細かく話している。また必要に応じて電話などでの報告もしている。				家族会や夏祭り、敬老会など請求書の送付時に全家族に案内状を送っている。返信がない場合は、職員が電話をし参加の確認をしている。「たより」は現在作成していないが、行事での写真など利用者の様子が見えるものを送付している。行事時に運営上のことは報告するようにしているが、職員の退職等については報告に至っていないので、今後の取組みに期待したい。新採職員は家族が来所時に挨拶をするようにしている。面会や電話時に家族との交流を図り職員と気軽に話せるよう努めているが、機会が少ないので積極的に声をかけるなど努めて欲しい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	居室に宿泊された方は、まだいないが、拒否はしていない。気軽に訪れて頂ける様に、対応は行っているつもりである。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭り・敬老会などの案内を行い、参加して頂いている。外出もご自宅の方にw行かれる方もおり、家族に話し、許可をもらっている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	写真は経営者が、送付している。「たより」は諸事情により現在休刊中であるが、再度行いたいとは思っている。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族が言ってこられれば、報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	家族もそれぞれであり、こちらの思い込みで、これで良いと言う事は無い。それぞれの家族を見て、支援を行っているつもりである。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の時や家族会などで、現在の事について報告し、協力して頂ける様をお願いしている。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会は、50%程の出席である。行事の方にも多くの方が参加してくださり、そこで顔なじみになれる方もいる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	特に転倒に関しては、入居時から頻りに話している。他のリスクも話すが、あまり危険な事ばかり言っても行けないと思う。このように注意してまいりますと話している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	声かけはおこなっているが、積極的には行っていない。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	出来ている。変更時は書面にて説明し、同意の文書を貰っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	大きな問題やトラブル無く、退去となっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	出来ている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時より、経営者が話し合いを持って、説明している。	/	◎	/	地元の自治会に入会しており、地区清掃には代表者も参加している。夏祭りの案内を公民館に掲示するなどして、大勢の参加を得ることができ、地域住民とも交流し関係を深めることができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩をすると声をかけてくださる。夏祭りには、地域の方も多く来て頂いた。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	まだまだであるが、増えてきていると思う。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ほぼ無い	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	声は掛け合っているが、立ち寄る事は無い。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行っていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	美容院に行ったり、買い物・ドライブはいいが、地域資源の把握は出来ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	自然と利用はしているが、働きかけや関係を深めようと取り組んではない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族・地域の方々には参加するが、利用者は参加していない。	○	/	△	家族や地域住民の参加はあるが、利用者の参加がなく、今後利用者が参加できるような工夫を期待したい。会議では、外部評価などの取組み状況を報告し理解してもらっているが、事業所からの報告が多く、参加者から意見はもらうが、具体的な取組みにまでは至っていない。今後は会議で出された意見や提案等の実現が望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	ほぼ一方的な報告となっている。質問や意見も時にある。防災に関しては、意見など頂くが、なかなか取り入れたり、報告等出来ていない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	大体時間は決まっているが、職員が多数参加する場合は、夕方に変更している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	棚に置いてあるが、多分誰も見ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念の内容は理解出来ており、努力はしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	家族には話したことがあるが、地域の方々には話していない。	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	希望すれば研修に行ける様にして頂ける。				代表者は事業所を頻繁に訪問し職員と関わりをもつことができている。年2回代表者は職員全員と面談を行い、管理者や職員のストレスを軽減し働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	自分もユニットで仕事をしているので、一緒に働くスタッフには、知識・技術などおりにふれ指導している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内の集まりなどには、出来るだけ参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスは無くならないと思う。話を聞いてもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	委員会もあり、理解を深めている最中である。				代表者自身が虐待や不適切なケアを認識し職員に伝えている。言葉遣いに関しては、不適切であると感じられることがあった場合はその都度注意している。これらの行為があった場合の対応方法や手順について、職員は理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	仕事の中で良かったことや反省する事等を話すも、特別に機械や場を設けてはいない。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切なケアは理解しているが、対応が出来ているかと言うと疑問である。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	点検出来ていない。話は聞いているつもりだが、言わない(言えない)ものも居る。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	度々話を聞き、理解出来ている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	特に話し合っていないが、拘束は行わないとしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今まで二名だけ、家族から拘束の話があったが、説明し、行わなかった。				

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学んだことはあるが、よく理解は出来ていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	利用したことが無いので、築けていないが、今後必要になれば相談に行く。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルはあるが、周知できているかという疑問がある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	1年に1回程度の訓練をおこなっているが、実践力は身につけているか・・・				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハット等記入しているが、続く時は続いている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	△	殆どの方がリスクを多く抱えている。見守りし、アンテナを常にはって、直ぐに対応出来る様にはなしているが、具体的な事故防止は難しい。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応マニュアルは無い。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	上司に報告し、出来るだけ早急に対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	ケアは改善すべき点があれば、改善するが、その結果は伝えていない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	×	出来ていない。			△	利用者から意見等を聞くことが不十分であまり把握できていないので、今後は利用者一人ひとりの意見を聞くよう努めて欲しい。家族には入居時に意見や苦情などを伝えられる場所や機会を設けたり、運営推進会議や家族会の開催時に聞くようにしているが、一部の参加者に限られているため、今後は家族全員からの要望を把握するよう努めて欲しい。年2回管理者が職員との面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	運営推進会議の参加。家族会の参加があるが、一部である。	○		△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に貼りだしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員からの意見は聞いているが、それを全て取り入れることはできない。良いと思う事は、出来るだけ取り入れる様に、経営者とも検討をしている。			○	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	取り組んでいるが、昨年の分はまとめていない。				評価結果の報告は行っているが、目標達成計画の報告までは行っていない。今後計画に沿った取り組み内容や経過なども会議で報告し、会議の参加者にモニターをしてもらえるよう期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価後には皆に話をしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標計画を作成し、掲示するが、意識している職員は少ない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	評価結果は運営推進会議のメンバーと家族には報告しているが、目標達成計画は報告していない。モニターもしてもらっていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	必要と思われるものに関しては作成した。個人個人は理解できていないと思う。				年1回は消防署立会いで避難訓練を行っている。津波避難訓練も年2回行っているが、地域との合同訓練は参加していない。運営推進会議等でも参加者から質問があるため、今後地域との合同訓練などを行い協力支援体制を確保し、利用者の安全に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に3~4回程実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	期限切れになった食料があった。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署とは訓練をお願いしたり、講習を行ってもらい交流があるが、ちいきの方々との訓練は2年程行っていない。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	認知症サポーター養成研修は施設に講師を呼んで行ったこともある。				地域住民の相談支援はほとんど行っていない。町や支援センターからの協力要請でイベントなどに参加はしているが、地域啓発やボランティア活動までには至っていない。今後地域のケア拠点となるよう事業所のPRに努めるほか、地域の関係機関等と連携しイベント等を開催するなどの取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	散歩途中で話を少しだけ聞く事はある。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントで参加要請があった時は出来るだけ参加している。			△	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年8月27日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3894000037
事業所名	グループホーム きらり
(ユニット名)	うみ
記入者(管理者)	
氏名	萩森 日出子
自己評価作成日	H30年 8月 7日

<p>【事業所理念】</p> <p>わたしたちは、ひとりひとりの「きらり」と輝いていた時代を大切に、泣き笑いを共に分かち合い、今また「きらり」と輝ける暮らしを支援し応援いたします。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1) 自分だったら嫌だと言うケアをしないと言う目標のもと、①羞恥心を伴うであろう、排泄・入浴などの介助を行う時は、自分自身にも問う。「これでこの方はいやがらないのだろうか」と・ → 一部職員には大きな声を出すものがいた。②夜間のドアの開閉はご本人に確認する。安全面も大切だが、出来るだけ本人の希望を叶える。 → 確認の上で少しだけ開放させてもらい安全面も考慮した。</p> <p>2) 自分の食べたいものを自分で作る。職員は利用者に関わる中で、可能性を引き出す喜びや、何かもつとできるのではないかという気持ちを持ってると言う目標のもと、①職員と一緒に献立を作る。何を作るか、材料は何かを話し合う。 → 1回だけメニューを決め、材料を決め、買い物にも行き、料理を行った。継続出来ていないが、1ユニットでは、メニューの決定と料理だけは、あと2回行えた。②昼・夜食を作る。 → 昼食だけでも大変で出来なかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>閑静な住宅街の中に立地している事業所で、となりには公民館があり、地域住民との付き合いもしやすい環境である。玄関入口には季節の野菜や花が植えてあり、利用者も季節を感じることができる。事業所が主催して行う夏祭りや敬老会も定例化しており、家族や地域住民の参加も多くある。月1回の職員会議には法人代表も毎回参加しており、代表と管理者を中心として支援を行なっている事業所である。</p>
--	---	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	話し合いは行っているが、それを具体的に実行する為の方法の話は進まない	◎	/	○	生活支援を行う中で、利用者の思いや暮らし方の希望の把握に努めている。会話での確認が取れない利用者に対しては、表情を観察し、意向や希望を読み取るようにしている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	検討している。しかしそれが本当に本人の希望かは判断しがたい。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族がくれば、話を聞き、思いを探ろうとするが、家族もわからない事が多い。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメント表等を活用し、本人の思い・希望の欄を作り、担当者以外も気付いた時にそこに記入するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	注意しているが、職員の決めつけが入っている事もあると思う。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に一応の話を聞き、記録する。家族が来れば、話を聞き、その人を理解する手がかりとしている。	/	/	○	入居前の調査で生活歴などを聞き取りしている。家族や担当していた介護支援専門員からも情報を得ている。入居後は家族の面会時にも確認し聞き取りを行っている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の生活の中で把握に努め記録し、それを会議の中で話し、共有するようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	記録を細目に行う事と、普段と異なる状態であれば、詳しい記録を残すように努めている。それを繰り返す事により、把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	検討はしているが、それが正解かどうかはわからない。	/	/	○	把握した情報を職員が利用者の視点で検討し、本人や家族に確認してもらっている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスで検討している。出来るだけ実行できるように心掛けている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題は明らかになっていると思う。それが本人にとって、課題ととらえられるかどうかは不明な点もある。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	全ての方の思いや意向が反映去れているとは言えない。	/	/	/	職員同士でアセスメントやケアのあり方について話し合いを行っている。利用者にも聞きとりができる場合はしているが、家族には結果を報告し確認作業になっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族の意向は聞くも「特にありません」「今まで通りでおねがいします。」が多く、本人も希望を言われる方は少ない。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	×	重度になると意志を伝えない方が多く、その方の思いを把握する事が困難である。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	家族の協力は得られる事もあるが、ほぼ職員が行うケアとなっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスでも話し合い、普段も職員間で話し合い共有出来ている。	/	/	○	介護計画は個人ファイルに綴じ、カンファレンスを通じ職員が共有できるようにしている。モニタリングを行うことで日々の支援につなげている。個人ファイルに利用者の言葉を記録し、注意事項は赤字で記録している。職員の気づき等に関しては、個別にファイルに記録する職員としない職員がいるので、職員全員で徹底することが望まれる。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録には残している。カンファで話し、今後の支援について協議しているが、支援に繋がっているかは・・・	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	職員のレベルにより、記録が詳しく書けている者とそうでない者がいるが、いつもと違う時は、赤字で記入出来ている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきや工夫があっても、話し合う事はしても、その時その時に記録する事はあまり出来ていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三か月～六ヶ月でプラン見直しを行っている。	/	/	◎	介護計画は3か月から6か月で見直しを行っている。月1回はモニタリングを行い利用者の状況を確認している。入院等変化があれば、カンファレンスを開き現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一回のモニタリングを全員行っている。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院等により変化があれば、退院時に計画を見直し、変更している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	×	会議は基本月に一回である。大きな問題が発生した時には、臨時で行う事がある。	/	/	○	月1回の職員会議を実施している。緊急案件がある場合は、担当職員と法人の代表者及び管理者で話し合いを実施している。基本的に会議は全員参加であるが、出席できない場合は口頭での説明と会議録を回覧し共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見の出やすい様に、司会者は頑張っている。最初の頃に比べ、意見は多く出る様になった。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	シフトの都合で、参加出来ない職員はいる。他の職員は全員参加している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を書き、引き継ぎノートに挟み、内容を伝え、皆にサインをもらっている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	連絡ノートを作っており、それを読めばサインするようにしている。会議記録も読めばサインしている。	/	/	○	申し送りノートの活用や受診ノートを作成し、確認した職員はサインし日付を記入するようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	上記同様。連絡事項等は、ノートを利用している。家族とのやり取りは介護記録に記入している。	○	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	その日にしたい事を訴える方は把握できるが、殆どの方はどうしたいのか訴えなく、また叶えて差し上げたいが、出来ていない。	/	/	/	日常生活の中で職員は利用者に寄り添い、声かけを行いながら雰囲気作りを大切に、入浴時の衣服の選択をしてもらうなど自己決定できるよう支援している。利用者が楽しみ喜んでいる様子を多く見られるよう、活き活きした言動や表情を引き出す声かけや雰囲気づくりにも努めて欲しい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	入浴時の衣類を選んだり、バイキングで選んだりされるも買い物等に行っても何を選ぶか戸惑う方も多い。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	職員の都合や、人数等により、出来ていない事が多い。しかし姿勢としては、利用者の希望を聞き、話し合っ得出来る様に働きかけている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	起床が、10時近くになる方もいるが無理に起こしたりはしない。入浴に関しては、なかなか思い通りにはしてあげられなく、業務のち号に合わせた時間になっている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	失礼な言い方をしない様には心掛けているが、生き生きした表情等を引き出す声掛けはあまり出来ていない。	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	反応に気づく努力は行っているが、意向に沿った暮らし方が出来ているかは疑問である。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	意識はしているが、出来ていない事が多い様に思う	◎	◎	△	職員は利用者の誇りやプライバシーを意識し、日々の支援に努めているができていないことが多いため、思いやりを持って利用者に声かけをするよう努めて欲しい。代表者が職員入社時にオリエンテーションを行い、声かけや態度について意識するよう説明をしている。排泄時など声かけに配慮し、不快な思いをさせないように注意しているが、できていない職員もいるため、徹底して取り組むことが望まれる。利用者の居室に入る時は、ノックをして利用者に許可をもらい入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	出来ている職員もいれば、出来ていない職員もいる。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	注意しているが、難聴の方への声掛けは大きな声となり、配慮に欠ける	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	利用者に声掛けし、居室に入っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し、順守出来ていると思う。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	編み物・縫い物を教えて頂いたり、一緒に掃除をおこない、感謝をしている。	/	/	/	トラブルにならないよう日頃から観察しており、職員は早めに仲介することで未然に防ぐよう努めている。利用者同士が支えあう行動を職員は見守ったり、利用者が他の利用者の世話をしているときなどは、感謝の気持ちを伝えている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合っ暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解出来ている。助け合っている方もいれば、そうでない方もいる。そのフォローが難しい。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	努力していると思う。利用者同士が助け合ったり、手伝ったりする姿がある。また利用者皆が楽しく過ごせる様に、職員も利用者も声をかけている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルが起こりそうな時は、間に入り、起こらないように利用者を移動したり、話をする。状況によっては見守りを行う事で利用者同士で、解消できる事もある。	/	/	/	



愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	全ては把握できていないと思うが、記録されている分に関しては、把握する努力はしている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人や家族が話してくれたことに関しては、把握しているが、知らない事が多いと思う。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	少数の方に関しては、出来ているが、多くの方は出来ていない。知人や友人を知らないし、馴染の場所を把握できていない。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	そのような雰囲気になれる様に、笑顔で接している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	散歩・ドライブ・買い物・食事・カラオケ等々行っているが、その日の希望によって行く事は少なく、業務に差しさわりの無い時、計画を立てて行っている状況。	○	○	○	事業所周辺を散歩したり、庭の水遣りや野菜の収穫、洗濯を干しに出るなど戸外での支援に取り組んでいる。重度の利用者は、終日居室で過ごすことがないよう努めているが、あまり外出できていないので、できる限り機会を見て外出支援にも取り組んで欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ていない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	天気の良い時に、日光浴や散歩に行く程度であり、それも多くはない。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	数名の方が、家族の支援で外食や外泊が出来るが、地域の支援はほぼ無い。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症についての勉強会などを行い、理解は深めているが、要因をひもとき、取り除くケアを行っているかと言うと出来ていない。ただそれぞれが日々認知症ケアに対しどうすれば良いのかと思いつながら頑張っている。	/	/	/	洗濯物をたたむ利用者に対し職員は見守りを行い、さりげなく会話をしながら支援しているが、つい手や口を出してしまうことが多いため、できる限り見守るよう専念し利用者の自主性を尊重した支援に努めて欲しい。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	△	特徴を理解しているのは、個々の職員で違っている。現在の状態を維持するためには、どのような事をするのが良いのかは、話し合いを持ち行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	△	見守る事の意味を話しているが、手や口を出す事が多い様に思う。	○	/	△	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	△	ご自分から、○○がしたいと言われる方には、行って頂くが、それを言われない方には、何がしたいのかわからず支援出来ていない。	/	/	/	カレンダーの日付け交換や洗濯を干したりたたむなど、それぞれに役割が決まっているが、日常的には取り組めていないので利用者の出番が増えるよう配慮し支援して欲しい。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	何かのイベント(例えば料理を作る)の時には、役割等を持って頂けるが、日常的には出来てはいない。	○	○	△	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	出来ていない	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	普段好んで着られる服などは把握できている。おしゃれと言われると把握できていない事が多い。				食事中の食べこぼしなどは職員がさりげなく対応している。病院受診帰りの利用者は、ウィッグを使用されていた。男性の利用者は、腕時計をしたり帽子をかぶっていたりと好みのおしゃれを楽しんでいる。重度の利用者も含め、訪問理容を利用するなど、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の好みを尊重している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	△	職員が選んできていただく事が多い。またご家族が、本人に合うと思う物を持って来られる。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	支援しているが、頑固で強く拒否されそのまま更衣しない方もいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	大体出来ているが、食べこぼしなどを指摘する者もあり、注意しないといけない。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	望まれる方は行ける様にしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	気を付けており、ホームに美容師が来られ、カットしてもらったり、髭剃りは毎日行い、衣類なども家族と協力して、気候に合ったものを着て頂いている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	理解出来ている者とそうでない者がいる。				買い物、調理や片付けもほとんど職員が行っており、利用者はあまり行っていないので、何かできることに取り組んでもらえるような機会を増やすなど配慮して欲しい。献立は栄養士が作成しているが、利用者の声を聞きながら季節のものや郷土料理などを盛り込んでいる。茶碗や箸、湯のみは利用者専用のものを使用するなど、それぞれ使いやすいものになっている。食事は職員も一緒に食べており、会話を楽しみながら自然な見守りや支援ができています。重度な状態であっても、食事前からリビングで過ごし、音やおいを感じながら過ごしている。ミキサー食や刻み食など利用者の状態にあった調理方法を、医師や栄養士のアドバイスを参考に職員が話し合い、偏りがないようバランスよく栄養が摂れるよう配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	調理や片付けは行う事もあるが、献立作り・食材選びはほとんど行っていない。一度だけ、行ったことがあるが、継続出来ていない。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	常時出来ていないので、自身等には結びついていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	把握しており、アレルギーについては、十分注意をしている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立作りは、主として栄養士が行っているが、季節の者などを頂いたり、誕生日・イベント等の時は、職員が話し合い、献立を作っている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いづれ器の工夫等)	○	状態に合わせた工夫や、調理を行っているが、ミキサー食の場合、おいしそうには見えないと思う。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	家族が持って来てくださるが、状態によりコップや匙等は、職員が購入してくる事もある。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は共に、同じものを食べている。声掛けやサポートを行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理の音が聞こえ、匂いはわかると思う。食事の前になると声掛けなくとも居室から出る方も居られ、「私の食事あるの」と聞く方もいる。待ち遠しいのか不安なのかはわからないが、食事には関心を持っている方が多い。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	特に水分には注意をしている。献立は栄養士が作っている。個々の摂取量は微調整を行っている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	嚥下や咀嚼の問題があって摂取量が少ない方には、医師に相談したり、ゼリー状にして水分を摂取して頂いている。またミキサー・トロミ等も取り入れ、栄養不足にならないように注意している。				
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	×	栄養士が居るので、栄養士が献立をたてている。話し合いは行っていないが、旬の食材を使った料理が出来る時には、変更をし利用者が喜ぶ食事を提供出来る様に心掛けている。			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材は毎日買い物し、作り置きをしない。また調理器具は毎日ハイター等で消毒している。ノロを心配する時期は、出来るだけ生物は食べない。						

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	2名理解できていなかった。が口腔ケアは行っている。	/	/	/	利用者の口腔内の把握ができていないため、今後は利用者一人ひとりの状況把握に努めて欲しい。洗面所まで行けない利用者には洗面器を利用するなど工夫し、利用者個々の口腔内の清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	義歯の有無等は理解しているが、それ以上の事はなかなか把握していない。	/	/	△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	学んでいない	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	自分で出来ない方もおり、職員が洗浄している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨き・うがい等は声掛けや介助を毎食後行っている。どうしても拒否される方もいるが、次の食後に声掛けをあきらめずに行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	本人の訴えや、職員の気づき、家族の希望にたいおうして、適宜歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ほぼ理解出来ている。	/	/	/	入居時の状況を確認し支援を行っている。トイレは広く重度の利用者もゆとりをもって使用できるようになっている。利用者の状況に合わせ、オムツなどの種類を考えながら支援しており、状況変化時には、おむつの必要性等について職員で話し合い、その人に合った支援ができるよう努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	△	理解出来ていない者が居り、研修が必要。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表にて大体把握出来ている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個々のその時にあった支援を行っている。パットの種類も考慮し、パンツにしても状態によっては、布パンツか紙パンツかという話し合い等は行う。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	△	便秘に関しては、水分・野菜・果物の摂取、運動の勧め等を行っているが、最後には薬になる。尿閉はあまり無いが、長時間でない場合は何故かと話し合い、医師に相談をすることもある。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄パターンが大体把握出来ているので、出来ている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	こういう物(パット・パンツ等)があるので、使っていいかと言う理解はとるが、本人家族と相談する事はあまり無い。職員から案を出して意見を伺う感じである。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人のその時に合った物を使っている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	行っているが、結果がなかなか伴わない。特に運動はなかなか行われる方がおられず、結局は薬に頼る事が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	入る日や時間は職員の都合になる。入浴の長さや温度は出来るだけ、本人の希望を聞くが、体調によっては早めに出て頂く事もある。	◎	/	△	湯温などは要望に応じているが、入浴日や時間など職員の都合等により決めているので、利用者の要望等に沿えるよう臨機応変な対応にも努めて欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	普段あまり話さない方が、入浴中にはおしゃべりをされる。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗身・更衣等、出来る方は見守りで行っている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	時間をおいて、再度声掛けしたり、声掛けの職員を変えたりしている。どうしてもダメなら、翌日に変更して様子見る。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタル測定を行い、判断できない場合は、看護師に相談している。入浴後も水分補給などを行い、疲れているようなら、臥床を促している。	/	/	/	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	大体は把握できている。	/	/	/	できるだけ日中の活動を多くするよう工夫した支援に努めている。現在薬は3名利用しているが、医師と相談しながら、安易に薬に頼らないようにしている。夜間眠れない利用者に対しては声かけ等を行い支援している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	レクに参加したり、散歩・外気浴を行ったりしている。本来のリズムが、夜起きていたという方も居り、無理に眠らせようとはしない。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠導入剤を使用している方もいるが、転倒などの危険もあり、あまり使用しない様に努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休みたい方には休んで頂き、体調がおかしい方には、声掛けし休んで頂いている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望者は出来ている。年に一回だけ新年に年賀状の様な物を、書いて頂き、家族に送っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	難聴の方には、話を聞きそれを伝えたり、手紙を書いてみないかと働きかけたりしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望者には電話をかけて頂いている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	本人に渡し、電話で手紙が届いたと話してもらっているが、あまり手紙やはがきは来ない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族にもお願いするが、あまり電話も手紙も来ない。度々家族に電話をしたい方は、家族に許可を頂いている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	理解出来ていない職員が多いと思う。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	一部の方のみ出来ている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	特に行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	一部の方が所持しているが、使う事は稀である。買い物レクがあり、希望者については、買い物に行き、事業所が立て替えている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	使う時は相談するが、持っている方は一部である。ほとんどの方は、〇〇を買っていいかと聞く程度。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預かっている方には、きちんと出納帳を記入し、毎月家族に送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	×	自分たちで出来るサービスしか行っていないと思う。	◎	/	○	急な病院受診や買い物等の外出など、その時々ニーズに応じて対応するよう心がけている。終末期等重度の利用者も含め、受診後ドライブするなどの支援も行っている。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	門扉は無く、自由に入れる。玄関も一般家庭のようにしており、玄関に続くスロープの周囲には花や野菜を植えている。	◎	◎	○	玄関に入る場所にはプランターを並べ、季節の野菜や花が植えてある。ゆるやかなスロープ横には手すりもつけてあり、安全に移動できるなど配慮されている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	家庭的とは言えないかもしれないが、毎月の季節に合った壁画を飾ったり、行事の写真を飾り、嬉しそうに見ておられる。浴室などは家庭浴槽であり、落着いて入浴出来ると思う。	◎	◎	◎	玄関には観葉植物が置かれ、壁には季節感のあるひまわりや月見の貼り絵や行事の写真が飾られている。リビングは整理整頓され掃除も行き届き、大きな窓や天窓から自然の光が差し込み、四季の移ろいを感じることができる。たたみコーナーがあり利用者がのんびりくつろぐ姿も見られた。季節の花を飾るなど雰囲気づくりにも努めている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	換気の時間も取り、掃除は頑張っている。食事の時間などはテレビを消している。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾り、季節の壁画を作っている。台所で食事を作る音や匂いを感じている。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	自分の好きな場所に座っている。仲の良い利用者同士と一緒に過ごす事が多い。また一人になりたい時は、ホールのすぐ近くに個室がある。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	△	浴室は良いが、トイレは戸を開けたままの方もおり、見える場合がある。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時には、自宅で使っていたものを持って来て頂くように話している。	◎		○	部屋の入口には写真入の名前を記入した表札が設置されている。居室には家族の写真や自宅で使用していた時計や衣装ケース、かわいいものが好きな利用者のベッドには、愛用のぬいぐるみが沢山置かれていた。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	移動の為に手摺を付けている。そこで足踏み運動も行う。玄関には一人で靴の着脱が出来る様に、椅子を置いている。				廊下には手すりが設置され安全に移動できるようになっている。トイレも広く立ち上がりバーが設置されており、利用者自身ができるだけ自立できるように配慮されている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	トイレの表示をつけたり、居室の入口には、名前と共に写真を貼っている。が、間違える方もいる。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	ほうきは玄関にあり、裁縫道具は希望されれば使って頂くが、保管場所は利用者が直ぐに手の届く所ではない。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	理解しているが、怖さも感じている。しかし出来るだけ施錠を行わない様に皆で協力している。	◎	◎	○	鍵をかけない取組みについて、代表者や職員は勉強会を実施し弊害について理解している。玄関は自由に入出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	特別に理解を求めているが、施錠をしてほしいと言う家族もいない。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中はもちろん施錠することは無い。夜勤帯の朝が出て行こうとされる方がいる。それでも何とか施錠をしない様に努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメント表と共に、月1回のカンファレンスにおいて、症状が変化し、注意点等が変わった方については話し、皆で共有出来る様に努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	早期発見には努めていると思う。バイタル測定も注意が必要な方は、数回回るように話している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	看護師には相談が良くある。また異常と思えば、受診し、医師に相談を行っている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人・家族の意志を尊重している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医療の内容については、家族の思いは明確には解らないが、家族の希望による受診援助を行っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	異常などがあって、受診をした場合は、必ず報告をしている。必要とあれば、家族と共に受診し、説明を聞いている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	外来・病棟に於いて、状態を聞かれる。また介護サマリーの提供も行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	地域連携室からの連絡のより、カンファレンスに向かっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	特に意識して関係作りは行っていない。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	施設内の職員として、看護師がおり、報連相は出来ている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	夜間でも休日でも電話連絡を行っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早め、早めに受診を行えるように指導している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	職員のレベルによる。作用は解っていても、副作用、用量等は理解できていない者が多い。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	投薬前に、名前・日付け・朝昼夜等の区別を口に出して投薬している。また吐き出す方も居るので確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	△	そこまで考えて与薬をしている者は少ない。排泄に関しては気にしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	眠剤薬や下剤などは経過などを記録し、気にして看護師や医師に相談をしている。				

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	入居時には、あまり話していない。状態が変化してくれば、その時その時に、家族に話している。	/	/	/	重度化や看取りを考慮した計画を作成しており、医師や利用者、家族と管理者が話し合いを行い、代表者や職員に内容を伝えるなど、共有に努めている。年に1回は看取りケアの外部研修にも参加している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	ターミナルケアを行うとなった時点では、医師などにも話し、共有、協力出来ていると思う。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかを見極めを行っている。	○	行っているつもりである。無理をしても良いターミナルケアは出来ない。また怖がっていても進歩は無いので、考慮している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	できること・できないことに関しては、入所前の訪問時、および入所時に話しているが、理解できない？忘れる家族もいる。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族との話は良く行っていると思う。現在元気な方の家族は、ピンと来ていないが、重度化している方の家族は、真剣に考えられている。特養などを望まれる方には、申込書を代筆し施設に持っていく。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	努力しているつもりだが、家族の思いは解らない	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	町の研修などを受けたものが、勉強会で発表したり、インフルエンザの流行期に話をする程度である。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は出来ていない。対応については決めている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	流行期には気にして見ているが、常時は出来ていない。町の方から感染症情報が来るので、その時は職員間で今日烏有するようにしている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	学校や、福祉施設などの情報は入るように努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は徹底できていると思う。ロイ放射の方にも協力をお願いしている。	/	/	/	



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族が来られた時には、現在の状況を報告し、こんなことをしてもらった、こんなふうに話された等々、出来るだけ細かく話している。また必要に応じて電話などでの報告もしている。				家族会や夏祭り、敬老会など請求書の送付時に全家族に案内状を送っている。返信がない場合は、職員が電話をし参加の確認をしている。「たより」は現在作成していないが、行事での写真など利用者の様子が見えるものを送付している。行事時に運営上のことは報告するようにしているが、職員の退職等については報告に至っていないので、今後の取組みに期待したい。新採職員は家族が来所時に挨拶をするようにしている。面会や電話時に家族との交流を図り職員と気軽に話せるよう努めているが、機会が少ないので積極的に声をかけるなど努めて欲しい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	居室に宿泊された方は、まだいないが、拒否はしていない。気軽に訪れて頂ける様に、対応は行っているつもりである。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	夏祭り・敬老会などの案内を行い、参加して頂いている。外出もご自宅の方にw行かれる方もおり、家族に話し、許可をもらっている。	◎		○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	写真は経営者が、送付している。「たより」は諸事情により現在休刊中であるが、再度行いたいとは思っている。	○		○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	家族が言ってこられれば、報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	家族もそれぞれであり、こちらの思い込みで、これで良いと言う事は無い。それぞれの家族を見て、支援を行っているつもりである。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事の時や家族会などで、現在の事について報告し、協力して頂ける様をお願いしている。	○		△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	家族会は、50%程の出席である。行事の方にも多くの方が参加してくださり、そこで顔なじみになれる方もいる。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	特に転倒に関しては、入居時から頻回に話している。他のリスクも話すが、あまり危険な事ばかり言っても行けないと思う。このように注意してまいりますと話している。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	声かけはおこなっているが、積極的には行っていない。			△	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	出来ている。変更時は書面にて説明し、同意の文書を貰っている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	大きな問題やトラブル無く、退去となっている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	出来ている。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ.地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時より、経営者が話し合いを持って、説明している。	/	◎	/	地元の自治会に入会しており、地区清掃には代表者も参加している。夏祭りの案内を公民館に掲示するなどして、大勢の参加を得ることができ、地域住民とも交流し関係を深めることができている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩をすると声をかけてくださる。夏祭りには、地域の方も多く来て頂いた。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	まだまだであるが、増えてきていると思う。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ほぼ無い	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	声は掛け合っているが、立ち寄る事は無い。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	行っていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	美容院に行ったり、買い物・ドライブはいいが、地域資源の把握は出来ていない。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	自然と利用はしているが、働きかけや関係を深めようと取り組んではない。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族・地域の方々には参加するが、利用者は参加していない。	○	/	△	家族や地域住民の参加はあるが、利用者の参加がなく、今後利用者が参加できるような工夫を期待したい。会議では、外部評価などの取組み状況を報告し理解してもらっているが、事業所からの報告が多く、参加者から意見はもらうが、具体的な取組みにまでは至っていない。今後は会議で出された意見や提案等の実現が望まれる。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	ほぼ一方的な報告となっている。質問や意見も時にある。防災に関しては、意見など頂くが、なかなか取り入れたり、報告等出来ていない。	/	◎	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	大体時間は決まっているが、職員が多数参加する場合は、夕方に変更している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	棚に置いてあるが、多分誰も見ていない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念の内容は理解出来ており、努力はしている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	家族には話したことがあるが、地域の方々には話していない。	×	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	希望すれば研修に行ける様にして頂ける。				代表者は事業所を頻繁に訪問し職員と関わりをもつことができている。年2回代表者は職員全員と面談を行い、管理者や職員のストレスを軽減し働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	自分もユニットで仕事をしているので、一緒に働くスタッフには、知識・技術などおりにふれ指導している。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	行っている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	町内の集まりなどには、出来るだけ参加している。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	ストレスは無くならないと思う。話を聞いてもらっている。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	委員会もあり、理解を深めている最中である。				代表者自身が虐待や不適切なケアを認識し職員に伝えている。言葉遣いに関しては、不適切であると感じられることがあった場合はその都度注意している。これらの行為があった場合の対応方法や手順について、職員は理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	仕事の中で良かったことや反省する事等を話すも、特別に機械や場を設けてはいない。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	不適切なケアは理解しているが、対応が出来ているかと言うと疑問である。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	点検出来ていない。話は聞いているつもりだが、言わない(言えない)ものも居る。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	度々話を聞き、理解出来ている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	特に話し合っていないが、拘束は行わないとしている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	今まで二名だけ、家族から拘束の話があったが、説明し、行わなかった。				

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	学んだことはあるが、よく理解は出来ていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	利用したことが無いので、築けていないが、今後必要になれば相談に行く。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルはあるが、周知できているかという疑問がある。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	1年に1回程度の訓練をおこなっているが、実践力は身につけているか・・・				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書・ヒヤリハット等記入しているが、続く時は続いている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	△	殆どの方がリスクを多く抱えている。見守りし、アンテナを常にはって、直ぐに対応出来る様にはなしているが、具体的な事故防止は難しい。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	苦情対応マニュアルは無い。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	上司に報告し、出来るだけ早急に対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	ケアは改善すべき点があれば、改善するが、その結果は伝えていない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	×	出来ていない。			△	利用者から意見等を聞くことが不十分であまり把握できていないので、今後は利用者一人ひとりの意見を聞くよう努めて欲しい。家族には入居時に意見や苦情などを伝えられる場所や機会を設けたり、運営推進会議や家族会の開催時に聞くようにしているが、一部の参加者に限られているため、今後は家族全員からの要望を把握するよう努めて欲しい。年2回管理者が職員との面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	運営推進会議の参加。家族会の参加があるが、一部である。	○		△	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に貼りだしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員からの意見は聞いているが、それを全て取り入れることはできない。良いと思う事は、出来るだけ取り入れる様に、経営者とも検討をしている。			○	

愛媛県グループホームきらり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	取り組んでいるが、昨年の分はまとめていない。				評価結果の報告は行っているが、目標達成計画の報告までは行っていない。今後計画に沿った取り組み内容や経過なども会議で報告し、会議の参加者にモニターをしてもらえるよう期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価後には皆に話をしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標計画を作成し、掲示するが、意識している職員は少ない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	評価結果は運営推進会議のメンバーと家族には報告しているが、目標達成計画は報告していない。モニターもしてもらっていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	出来ていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	必要と思われるものに関しては作成した。個人個人は理解できていないと思う。				年1回は消防署立会いで避難訓練を行っている。津波避難訓練も年2回行っているが、地域との合同訓練は参加していない。運営推進会議等でも参加者から質問があるため、今後地域との合同訓練などを行い協力支援体制を確保し、利用者の安全に万全を期して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年に3~4回程実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	期限切れになった食料があった。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署とは訓練をお願いしたり、講習を行ってもらい交流があるが、ちいきの方々との訓練は2年程行っていない。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	認知症サポーター養成研修は施設に講師を呼んで行ったこともある。				地域住民の相談支援はほとんど行っていない。町や支援センターからの協力要請でイベントなどに参加はしているが、地域啓発やボランティア活動までには至っていない。今後地域のケア拠点となるよう事業所のPRに努めるほか、地域の関係機関等と連携しイベント等を開催するなどの取り組みに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	散歩途中で話を少しだけ聞く事はある。		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	出来ていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	行っていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域のイベントで参加要請があった時は出来るだけ参加している。			△	